

TOPICS

MAFFとは農林水産省の英語表記「Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries」の略称です。「MAFF TOPICS」では、農林水産省からの最新ニュースなどを中心に、暮らしに役立つさまざまな情報をお届けいたします。

取材・文／細川潤子

NEWS-1

被災地の取り組みは「復旧・復興」から「復興・創生」へ

こうした中、東北3県の被災地域では、自治体、法人、民間などが中心となって、将来につながるさまざまな活動が行われています。これらの多岐にわたる取り組みをご紹介します。

あんぽ柿が復興・創生のシンボルに

⑥福島県伊達市
[JAふくしま未来]

震災により自粛していた「あんぽ柿」の加工を平成25年から再開し、すべて放射性物質非破壊検査を行い、安全なものを出荷してきた。平成28年には原料加工、自然循環乾燥、パッケージ施設などを備えたあんぽ柿加工選別包装施設「あんぽ工房みらい」を整備した。これにより品質向上、規格の統一が図られ、震災からの復興、地域の創生のシンボルとなった。



上／ブランド化され、地域の創生のシンボルとなったあんぽ柿。左／ムラができないよう、移動しながら乾燥させる自然循環乾燥設備。

将来につながる事業や活動に期待

平成23年3月の東日本大震災の発生後、政府は平成27年度までの5年間を「集中復興期間」として、被災地域の復旧・復興に取り組んできました。

大震災発生から5年が経過した平成28年3月、平成28年度からの5年間を「復興・創生期間」と位置づけ、被災地の自立につながり、地方創生のモデルとなるような復興を目指しています。

農家とともに50万本のクロマツ苗を生産・植栽

⑤宮城県名取市
[公益財団法人 オイスカ]

宮城県南部沿岸域は、伊達政宗の時代に農地開墾とともに海岸林を造成。400年にわたって代々守り続け、震災前は一大農産地だった。平成24年から主に民間の寄付でクロマツの種をまき、苗木を生産、植栽。海岸林のそばでは野菜が作られている。



上／植栽地の防風垣に寄付者名が記載されている。右／農家の技術を活かして健全な苗が育っている。



地元住民やNPOが協力して海岸防災林を再生

⑦福島県福島市
[公益社団法人 福島県森林・林業・緑化協会]

福島県の海岸防災林は、江戸時代から先人たちが植栽し、代々守ってきた人工林。その再生のために、地元住民やNPO、企業などが協力して、植樹祭、高校生・一般人を対象としたセミナー、森づくり活動の研修会、復興会議など、幅広く活動している。



いわき市「釜の台国有林」でクロマツのコンテナ苗500本を植樹。



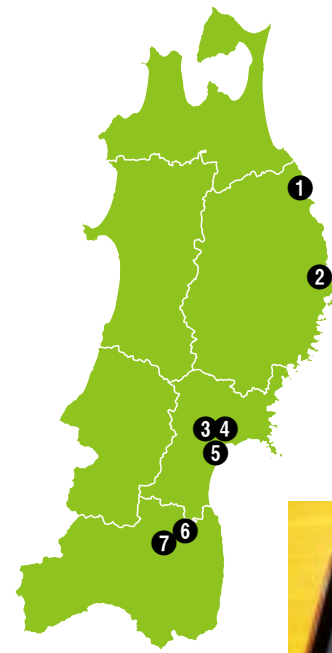
左／組合長自ら作ったそばは地元でもおいしいと評判。下／八幡ファームの組合員と地域住民による、そばの種まき。



復旧農地で作ったそばで地域住民が交流

②岩手県宮古市 [八幡ファーム]

津波により大きな被害を受けた宮古市田老地区で営農組合を設立。農地の復旧工事後、そばを栽培。最初は子実で販売したが、おいしいそばを地元の人に食べてもらいたいと考え、そば粉に加工して販売。平成27年10月には組合長自らそば屋を始める。地区には食堂がまだ少ないため、住民の交流の場にもなっている。



「おにぎり茶屋ちかちゃん」のランチメニュー「おにぎりプレート」。

積極的な6次産業化で農家レストランをオープン

④宮城県仙台市
[農事組合法人 仙台イーストカントリー]

水稲・大豆の作付面積は震災前の3倍以上に拡大。水稲の作付けにはラジコンヘリコプターを活用。また、6次産業化にも積極的に取り組み、平成25年には農家レストラン「おにぎり茶屋ちかちゃん」をオープン。現在、みそ、米粉、おにぎり等の製造販売、精米の飲食店への販売を行っている。

被災農家と協力して地域おこしを展開

③宮城県仙台市 [一般社団法人 ReRoots]

「復旧から復興へ、そして地域おこしへ」をコンセプトに、農業と農村コミュニティの再生や若者の新規就農に取り組んできた。また、被災農家と協力して、市民農園の開設、農業体験・食育ツアー、地元の採れたて野菜を届ける移動販売を開始して地域活性化に貢献。（「ディスカバー農山漁村の宝」第2回選定地区）



復興公営住宅での野菜の移動販売「くるまあと」。

洋野町で水揚げされ、低温管理された活ダコ。



高度衛生品質管理地域づくり

①岩手県洋野町 [洋野町]

被災した洋野町は、食の安全・安心をベースにした消費者から選ばれる産地を目指し、平成28年に県内で初めて「岩手県高度衛生品質管理地域」に認定され、漁獲から流通までの一貫した「コールドチェーン」を構築。夏場の高温に弱いタコを、生きたままより遠方に出荷することが可能となり、販路が拡大した。

読者の声

読者の皆さまから寄せられた
『aff(あふ)』1月号へ
ご意見・ご感想を紹介します。

旬の「みかん」の記事を読んで、ますますみかんが好きになりました。今までは何気なく食べていたのですが、選び方や食べ方がとても参考になりました。(60代以上・男性)

かんきつ類、特にみかんの商品管理はすごいと感心しました。(60代以上・男性)

選び方・食べ方を参考に家族でみかんを楽しみました。「香酸かんきつ」を使ったレシピは分かりやすく簡単だったので、娘と作りたいです。(40代・女性)

ゆず生産の北限の地に住んでいます。ゆずの商品化は、農家だけでなく消費者としても気になっていました。「今月の農林水産大臣賞」の木頭ゆずの取り組みは、大変参考になりました。(60代以上・女性)

「MAFF TOPICS」で紹介されていた「フード・アクション・ニッポン アワード2016」の受賞10作品は、どれもその地域に思いをはせながら楽しめそうなものばかりで、読んでいて胸が高鳴りました。(40代・女性)

〈お詫びと訂正〉

本誌2月号特集1「花」P.11左上の写真「3」の説明は、「県から委託を受けて試験育成している品種。」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

広報誌aff(あふ)の感想をお聞かせください

今後もよりよい広報誌とするため、読者アンケートにご協力ください。農林水産省のホームページ、広報誌affのサイトから回答できます。



メールマガジンのご案内

大臣メッセージや施策の紹介、イベント情報などをお届けする「農林水産省メールマガジン」を毎週月曜日に発行しております。ぜひご登録ください。無料です。
<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/>

フェイスブック・ツイッターのご案内

フェイスブック <https://www.facebook.com/maffjapan>
ツイッター https://twitter.com/MAFF_JAPAN

女性・若者の活躍に向けた「G7国際フォーラム」を開催

NEWS-3

平成28年12月12日(月)、「農業分野における女性・若者の活躍推進に向けたG7国際フォーラム」を開催しました。

G7(先進7カ国=日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ)各国をはじめ、開発途上国、国際機関(OECD=経済協力開発機構、FAO=国連食糧農業機関)の農業政策実務担当者が、女性や若者が置かれている現状、農業分野での女性や若者の活躍推進に向けた施策・制度に関する情報共有や、今後の施策を立案する上での課題等について議論しました。

また、日本、アメリカ、フランスの女性農業経営者4名のパネルディスカッションでは女性・若者が活躍できる農業のあり方等について意見が交わされました。



左／G7および開発途上国の農業政策を担当する実務者が、今後の課題などを議論。右／パネルディスカッションでは安倍昭恵総理夫人もコメンテーターとして参加。

「ウッドデザイン賞2016」農林水産大臣賞など25作品が決定

NEWS-4

「ウッドデザイン賞」は、木の良さや価値を再発見させる製品や取り組みについて、特に優れたものを消費者目線で評価し、表彰する新しい制度です。これによって「木のある豊かな暮らし」が普及・発展し、木材利用が進むことを目的としています。

表彰部門は、①ライフスタイルデザイン部門(木を使って暮らしの質を高めているもの)、②ハートフルデザイン部門(木を使って人の心を豊かに、身体を健やかにしているもの)、③ソーシャルデザイン部門(木を使って地域や社会を活性化しているもの)。最優秀賞(農林水産大臣賞)、優秀賞(林野庁長官賞)、奨励賞(審査委員長賞)が選ばれました。

最優秀賞(農林水産大臣賞) ソーシャルデザイン部門

コンセプトカー SETSUNA
トヨタ自動車株式会社(愛知県)
(技術・研究分野)

自動車づくりの専門性と木材利用の専門性が協働した優れたプロジェクト。用途に応じて木材を選び、細部にこだわりが。



ウッドデザイン賞運営事務局

☎03-5777-3128

<https://www.wooddesign.jp/>

NEWS-2

「ディスカバー農山漁村の宝」第3回グランプリを選出

グランプリ

【北海道 別海町】株式会社べつかい乳業興社

べつかいブランドの乳製品

牛乳、バター、チーズなどの乳製品を町名「べつかい」の名で製造販売する。べつかいブランドを確立し、商品を通じて町をPR。国内外の販路を拡大し、売り上げも増加した。加工をはじめ、さまざまな試みで地域の乳製品が発展。地産地消によって経済が循環するという、大規模な展開が評価された。



上／乳製品加工施設で牧場経営者や町民に乳製品づくりを指導。左／海外でのアイスクリーム販売の様子。輸出量も増加している。

プロデュース賞

【宮城県 高千穂町】高千穂ムラたび協議会

限界集落が挑戦

若者を中心とした事業体制や、専門機関との連携などで体制を整え、甘酒やどぶろくを生産。農家民宿などの訪問者は約4倍に増え、アジアやヨーロッパからも多い。伝統文化や歴史を打ち出しつつ限界集落を変える取り組みが目される。



チャレンジ賞

【徳島県 那賀町】木頭ゆずクラスター協議会

木頭ゆずの産地を活性化

農業協同組合と地域企業が連携し、地元で生産された「木頭ゆず」の、加工品を開発・販売。デパートでの「木頭ゆずフェア」などを通じて販路を拡大する。木頭ゆずのブランド力を強化し、海外にも展開。フランスで高く評価されている。



フレンドシップ賞

【秋田県 仙北市】仙北市農山村体験推進協議会

意欲的な宿泊への取り組み

農山村への宿泊体験を受け入れ、農家民宿のレベルアップに関わる取り組みをした結果、教育旅行や海外からの農家民宿宿泊数が増えた。フェイスブックなどSNSを活用した積極的な情報発信で、リピーターが増えたことも評価の対象。



アクティブ賞

【北海道 芽室町】株式会社九神ファームめむろ

高齢者や障害者が参加

「誰もが、当たり前のように働いて生きていける町」を目指し、雇用機会の少ない高齢者、障害者に雇用の場をつくる。農業生産のほか惣菜の製造やレストランなども事業化。農業生産から加工、調理、接客、販売まで、多くの人が参加する。



農山漁村の宝のさらなる発展に期待

「ディスカバー農山漁村の宝」は、地域を活性化し、所得向上に取り組んでいる農山漁村の優良事例を選定するものです。第3回選定として全国769地区の中から30地区が選ばれ、最も評価の高かった北海道別海町の株式会社べつかい乳業興社が「グランプリ」に輝きました。特別賞は「プロデュース賞」「フレンドシップ賞」「チャレンジ賞」の4賞。首相官邸で選定証授与式および交流会が行われ、安倍首相からグランプリ楯が授与されました。また、交流会では首相らが各地区の代表と意見交換を行いました。